



JTUC-TOKUSHIMA
連合徳島

発行：日本労働組合総連合会徳島県連合会

編集責任者 川口 誠二



vol. 329

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35の1
徳島県労働福祉会館内
tel. 088 (655) 4105
fax. 088 (655) 4113
E-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp
http://tokushima.jtuc-rengo.jp/

当面の日程

- ◎8月5日～6日 連合徳島 2023 平和行動in広島
- ◎8月17日(木) 「クラシノソコアゲ応援団！ RENGU キャンペーン」(JR徳島駅前)
- ◎8月23日(水) ナースアクション(JR徳島駅前)
- ◎8月25日(金) 第34期部落解放・人権講座 開校式、第1週(労館 502 会議室)
第2週(9/15)第3週(9/22)第4週(9/29)
- ◎8月26日(土) 第3 回ボランティアサポートチーム養成講座(防災センター)
- ◎9月9日～11日 平和行動in根室
- ◎9月12日(火) 「クラシノソコアゲ応援団！ RENGU キャンペーン」(JR徳島駅前)

連合地方委員会

選出

新会長に 島 和久 氏(電力総連)

2023年度後期主要課題の方針を確認

連合徳島は、2023年6月28日、徳島市内グランヴィリオホテルにおいて、「2023年度連合徳島地方委員会」を開催し、各構成組織等から98人(うち女性20人)が参加し、2023年春季生活闘争の中間まとめ及び、2023年度後期主要課題の取り組み方針、連合徳島役員補充等を決定した。

岡会長代行の開会挨拶の後、議長に高石地方委員長(基幹労連)が選出され、大谷会長からの挨拶では、配布された「未来への願い」の冊子を紹介し「ヒロシマ被爆アオギリⅡ世平和祈念植樹写真展」徳島実行委員会の取り組みについて説明の後、「本日の地方委員会において会長を退任予定となる。この間の、各構成組織・組合員をはじめとする関係諸団体の皆様の連合徳島運動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。新会長をはじめとする新執行部体制に皆様方の益々のご協力をお願いする」と述べた。

来賓挨拶では、山根木晴久(連合本部副事務局長)、福家良一(連合香川会長)、村上正浩(徳島県商工労働観光部副部長)、内藤佐和子(徳島市長)、森本佳広(公社)徳島県労働者福祉協議会会長、連合徳島議員ネットワーク各議員より激励と連帯の挨拶を受けた。

報告事項の「一般経過報告」「2023年度上半期一般会計報告」「会計監査報告」を執行部から報告した後、全体の拍手で承認された。第1号議案「2023年度春季生活闘争の中間まとめ(案)」、第2号議案「2023年度後期主要課題の取り組み方針(案)」の



島新会長の団結ガンバロー

題の取り組み方針(案)」の提案後、鈴木地方委員(自治労)から「マイナナーカードや新型コロナウイルスへの対応に苦慮する公務職場や医療現場での人員不足の実情について」、行本地方委員(県教組)からは「教職員不足と長時間勤務などについて」の発言があり、執行部は関係機関等に対し要請していききたいとの見解を示した。第1号議案、第2号議案が全体の拍手で承認され、第3号議案「連合徳島役員補充選挙について」は、役員推薦委員会および選挙管理委員会からの報告の後、多田副会長から新役



人員不足を訴える
鈴木地方委員(左)と行本地方委員(右)

員として、島和久会長、中川孝文会長代行、岡美由紀副会長、川口誠二事務局長、南礼子副事務局長、田北光広執行委員、清水大樹会計監査を補充とすること

2023年度連合四国ブロック最賃委員学習会



四国ブロック各県から31人が出席

開会にあたり連合高知池澤会長は「2023春闘は高い水準で賃上げがされ、高知も同様に引き上げられたい。最賃近傍で働く皆さんのためにも大幅引き上げを引き出してほしい」とあいさつ。

続いて、連合本部仁平総合政策推進局長より、「今年度はランクの再編成がされ、目安制度発足以来4ランク制だったものを3ランク制へ見直した。地域間格差は正と誰もが時給1000円に早期に近づけるため大幅引き上げをめざしたい。そして、ポスト1000円の議論には使用者を巻き込み議論したい」と決意を述べた。

その後、長江労働条件局長より、2023年度最低賃金審議のポイントについて提起・意見交換で課題共有するとともに認識を合わせた。

連合徳島は連合本部および四国ブロックと連携し地域別最低賃金の引き上げに向け全力で取り組む。

就職差別撤廃に向けた
労働局要請

①公正採用選考人権啓発推進員の設置事業所が1579事業所、研修参加事業所が272事業所という事からすると、設置すれば終わりのという認識なのではないか。

②部落解放・人権研究所主催の西日本夏期講座へ参加しているのか。

③就職差別強化月間を10月に設定し関係団体と連携するとあるが、連合および解放同盟のことか。

④公正採用選考人権啓発推進員の設置は事業所が分かれています。1人でいいのか。

⑤ハローワークにおける研修に自治体から参加はあったか。

等の質問に対し、

①独自に取り組んでいる事業所もあり、参加事業所が増える工夫をしたい。

②西日本夏期講座には参加

していないが、部落解放・人権徳島地方研究集会には参加している。

③今年初めての取り組みとなるので、労働局独自で計画している。

④30人以上で設置することになっているが臨機応変な対応も必要と考える

⑤参加はあったが、どこに参加したか今は持ち合わせしていない。

との回答を受け、一定認識を合わせ、要請行動を終了した。

私たちは引き続き、人生の大きな岐路である「就職」において、すべての差別をなくすべく要請行動を継続していく。



要請書を手交する大谷議長



就職差別撤廃を訴える共闘会議一同



第3期労働関係セミナー

全日程終了

第2講座

徳島県中小労働対策本部は、2023年6月3日、ふれあい健康館の第4会議室において「第3期労働関係セミナー・第2講座」を開催し、連合徳島の構成組織等から33人が参加してハラスメントの防止対策・解決法について学習した。

第2講座「ハラスメント防止対策および解決方法」について、笹谷正廣弁護士（元徳島県労働委員会会長）からの講演では、ハラスメントをなくするために、どうするべきかを使用者側と労働者側の立場となる

第3講座

徳島県中小労働対策本部は、2023年6月15日、ふれあい健康館第1会議室において「第3期労働関係セミナー・第3講座」を開催し、連合徳島の構成組織等から25人が参加して、2024年4月以降に施行となる「働き方改革」での時間外労働の上限規制等の影響について学習した。

第3講座「2024年問題とはなにか？」トランプドライバーの働き方改革について、石下博運輸労連四国地連書記長から講演を受け「現在、私たちの生活において物流の9割がトラック輸送に頼っており、2024年からは14%

って考えながら進められ「会社では当然ながら人を使うため人と人との接触であらゆる場面で問題が起る。また、労働環境や社会生活を取り巻く環境の変化が背景となっている。使用者は人員削減を視野にハラスメント行為を行っていることがある。ハラスメントとなる前に労使間で話し合うことが大事であり、お互いに人格を認め合い尊重しなければならぬ。ハラスメントが生じた後となつては、人間関係が壊れている上に、被害者の精神的負担も大きいので解決が難しくなる。労働委員会では相談

ほどの荷物が運べなくなると。また、徳島では41%である。郵便は既に土曜日配達には行っており、宅急便においても関東への荷物は2日後の配達となつており、これまで当たり前に翌日着とされていたサービスは国際的にみても優秀であると言える。今後は、働き方改革関連により2024年4月以降からの施行で、労働基準法の時間外労働の上限規制、改正改善基準告示、月60時間の時間外割増賃金引上げが適用され、一般消費者や荷主、ドライバー、物流事業者には様々な影響が及ぶと考えられる。これまで、年6カ月まで時間外労働の上限規制がなかったが、上限規制960時間

対応や、あつせんでの紛争解決をしているが、会社に労働組合がある方が良くと思う。これからの社会を動かす力となる組合として頑張っていたきたい」と述べた。

質疑では「加害者の処分の相当性」「残業拒否者への対応の仕方」「ハラスメントの見極め」「和解となつても心は解決しない事」「加害者の懲戒異動が他の部署への迷惑となつていない」「言動の正当性の判断」等が出され、弁護士と労働委員会での経験から事例とともに説明がされた。

まとめと閉会挨拶を司会のとなつても、1か月80時間では過労死認定ラインで、公道での過労運転での事故につながる可能性がなくなつたとは言えない。事業者は、コストに見合わない運賃での輸送に対し、荷主とのサーチャージを含む契約変更や輸送手段の見直しが必要となる。一般消費者は急ぐ荷物はこれまで以上の運賃の支払いが必要となり、欲しい物がすぐに手に入らない状況となる」と述べ、法改正までの運輸労連の取り組みについても説明がされた。

質疑では「収入減での賃上げ交渉のあり方・人材不足への対応について」「施行後の長距離運航の対応について」等が出され、NX

徳島県中小労働対策本部・北川幹事が述べて第2講座を閉会した。



各構成組織から33人が参加



講演を行う笹谷正廣弁護士



各構成組織から25人が参加



石下博運輸労連四国地連書記長

第4講座

徳島県中小労働対策本部は、2023年7月1日、ふれあい健康館において「第3期労働関係セミナー・第4講座」を開催し、各構成組織等から27人が参加し、「誰もが働きやすい職場をつくるため」の学習を行った。

第4講座「職場のパワーハラスメント防止のため」について、徳島産業保健総合支援センターのメンタルヘルス対策促進員である金澤憲治特定社会保険労務士からの講演では「ハラスメント対策に取り組むにあたり、◎すべての社員が家に帰れば自慢の娘であり、息子であり、尊敬されるべきお父さんであり、お母さんだ。◎そんな人たちを職場のハラスメントなんかで鬱にいたらしめたり苦しめたりしていいわけがないだろう。◎協調しつつもメリハリのある人間関係の形成が必要である。」と述べ、その後の事例DVD鑑賞を行い「根性論に基づく指導の上に、部下の家庭内事情や性格に触れた指導のケース」「女性の上司として配属された先で反発をされた業務に支障が出た場合のケース」「同僚間でのハラスメントで人間関係以外に業務に支障が出た場合のケース」について説明の後、自己成長エゴグラム（SGE）による自己分析で、対人関係に関わる傾向を判断

し直すべき自我の特徴を知ること、ストレス対策に役立たせる心理チェックを参加者全員で行った。

職場でハラスメントを受けた場合の対応策では「①相手に「NO!」と言える意志表示をすること②ハラスメントを受けたら状況を記録すること5W1H（いつ、どこで、誰が、何を、何のために、どのようにして）の他にも、内容、周囲の状況を詳細に記録すること③一人で悩まないこと（ハラスメントを受けた自分の対応を記録し、信頼できる周りの人に相談すること）」が大切である。過去の判例では、入社2年目の24歳男性営業社員の過労自殺の事件では、最高裁の判決は、会社側の安全配慮義務違反による1億6800万円の損害賠償責任が認められた。これは、経営の存続にもつながる出来事であり、労働組合があつたが関与せず、機能していない状態にも問題がある事件であつた。また、再発防止策は弁護士と自殺した母親で作成がされており、会社内部の者や労働組合が再発防止を取らないと実効性に欠けるものである」と述べた。

質疑では「ハラスメント加害者の対応について」の質問が出され、これまでの事例をもとに金澤氏から説明がされた。徳島県中小労働対策本部・井内議長の閉会挨拶で第4講座を閉会

雇用における

男女平等に関する

労働局要請

2023年6月26日10時30分から、徳島地方合同庁舎地下1階会議室において「男女間の賃金格差の解消等、雇用の分野における男女の均等な機会及び処遇の確保し、働きたい人が性別に関わりなく活躍できる社会、仕事と生活の役割と責任を分かち合いながら働き続けること」のできる、『男女平等参画社会』の実現に向けて、連合徳島女性委員会藤田委員長、眞鍋委員、南委員、仁木職員が参加し、徳島労働局雇用環境・均等室へ要請行動を行った。

冒頭、藤田女性委員長から佐藤室長に要請書を手交し、各要請項目に対し丁寧な回答を得た。意見交換では、

し、今年度の「第3期労働関係セミナー」の全日程を終了した。



講演を行う金澤憲治特定社会保険労務士



藤田女性委員長から佐藤室長へ要請書の手交



要請行動の様子

①産後パパ育休は職場環境により取得が難しい、企業訪問などにおいてより一層周知願う

②女性の割合30%といわれるが、徳島労働局の割合は

③育児・介護休暇は収入が減るため取りにくいと聞く

④育休には社会保険の免除があるが、介護休暇には免除がない

⑤男女が同じ働き方をするのが男女平等だと思つている

等の質問に対し、室長より一定見解が示され認識を合わせた。引き続き男女が共に生きいきと暮らせる社会の実現に向けて、連携をはかり取り組みを進めることを確認し、意見交換会を終了した。

第23期 ボランティアサポートチーム 養成講座

第1回

2023年5月27日、第23期ボランティアサポートチーム（VST）養成講座が、何度も学んだ私も忘れの開講式並びに第1講座た事柄が多くあり、災害時（普通救命講座）を北島町にある徳島県防災センターに家族や同僚の生命を守るで開催し、各構成組織等から13人が参加し受講した。

開講式は、連合徳島・高仲間に進められ、い」と挨拶。

尾職員の司会で進められ、大谷連合徳島会長の主催者挨拶で、「昭和南海地震から80年近くが経過して記憶も薄れる一方で、南海トラフ地震が今後30年以内に発生する確率が70%〜80%（20年以内だと60%程度の確率）と言われている。2011年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの命が失われるとともに、現在と使用法、③気道異物の除も、避難生活を強いられて去方法、④三角巾での応急組合の果たす社会的役割と全員が訓練用の人形等を使として、地域の一人であるこつて心臓マッサージやAEDとの自覚を促しながら、災



参加者全員で記念撮影



人形を使って訓練する受講者



心肺蘇生の説明をする山下指導員

害時のリーダー育成と組合員のボランティア意識の向上、そして労働組合としてのネットワークを行かした地域貢献、地域住民とのふれあいのなかから共生と協働を確立するための事業として発足してから今回で第23期を迎えた。引き続き「VST養成講座」による人材育成と災害支援体制の確立について、市民との協働で一層の充実を図りながら、地域の安心・安全な暮らしに貢献したい」と挨拶。

続いて、VSC国見リーダーからは「この3年間、コロナ禍で中止となっていたVST養成講座であるが、何度も学んだ私も忘れの開講式並びに第1講座た事柄が多くあり、災害時（普通救命講座）を北島町にある徳島県防災センターに家族や同僚の生命を守るで開催し、各構成組織等から13人が参加し受講した。

開講式は、連合徳島・高仲間に進められ、い」と挨拶。

尾職員の司会で進められ、大谷連合徳島会長の主催者挨拶で、「昭和南海地震から80年近くが経過して記憶も薄れる一方で、南海トラフ地震が今後30年以内に発生する確率が70%〜80%（20年以内だと60%程度の確率）と言われている。2011年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの命が失われるとともに、現在と使用法、③気道異物の除も、避難生活を強いられて去方法、④三角巾での応急組合の果たす社会的役割と全員が訓練用の人形等を使として、地域の一人であるこつて心臓マッサージやAEDとの自覚を促しながら、災

第2回

2023年6月24日、徳島スローワークセンター・あゆみ園にて、第23期ボランティアサポートチーム（VST）養成講座の第2講座を開催し、構成組織等から19人が参加して車椅子と白杖の体験学習をした。

冒頭、徳島県身体障害者協会の林徳太郎代表から「災害時での障がい者をサポートするための取り組みに感謝する。徳島県内で障害者手帳を所持する方は人口726,729の内、3,559人の方がおられ、人口の約4.6%にあたる。日常においても体の不自由な方へのサポートをお願いするとともに理解して接してほしい。また、知り合いの方で障がいをお持ちの方がおられたら、徳島県身体障害者協会への登録を周知してほしい」と挨拶。

あゆみ園の山口所長から、支援事業の紹介と施設説明を受け、そのあと、車椅子の取り扱い方法と白杖体験での注意事項の説明を、徳島県労働者福祉協議会「なのはなヘルパーステーション」の津司さん、山崎さん、伊藤さんから指導を受けながら、あゆみ園周辺道路で車椅子体験と操作方法、白杖体験と視覚障がい者への介助（サポート）の訓練を実施した。受講者からは、「障がい者のために



参加者全員で記念撮影



白杖体験と視覚障がい者への介助訓練



車椅子体験をする参加者

関連施設周辺道路の段差や危険な箇所の整備はするべきである」「白杖体験で見えない恐怖と向き合いながら歩く大変さが体験できてよかった」等の意見や感想が寄せられた。

あゆみ園での体験学習後、徳島市みちピカ事業として昭和町3丁目市道のごみ拾い及び草抜き等のボランティア活動を合わせて行い、第2講座を終了した。

6月街宣

ジェンダー平等を県民にアピール&周知

連合徳島は、2023年6月9日、JR徳島駅前において、「クラシノソコアゲ応援団！RENGOキャンペーン」街宣行動を実施し、各構成組織等から30人が参加し「ジェンダー平等」のビラ入りティッシュの配布とアピールボードを掲示して連合の取り組み等の周知活動を行った。

冒頭、大谷連合徳島会長より、「労働条件は、労働者と使用者が対等の立場において決定すべきものであるが、会社と労働者個人が対等な立場で交渉することは難しい。労働者1人ひとりの力では小さくても、労働組合として加入がで

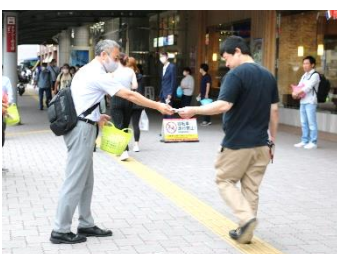
7月街宣

「必ずそばにいる存在」として労働組合の必要性を県民にアピール

連合徳島は、2023年7月11日、JR徳島駅前にて、「クラシノソコアゲ応援団！RENGOキャンペーン」街宣行動を実施し、各構成組織等から30人が参加し、「ワークルール検定」のビラが入ったティッシュの配布と、アピールボードを掲示して連合の取り組みについて周知活動を行った。

まず、島和久連合徳島会長が私たちが取り巻く経済や政治情勢について述べたあと、「社会経済が変化を続

「クラシノソコアゲ応援団！RENGOキャンペーン」



ビラを手渡しジェンダー平等を訴える



県民に訴える岡連合副会長

平和行動in沖縄

語り継ぐ戦争の実相と
運動の継続で恒久平和を実現しよう

沖縄「慰霊の日」である2023年6月23日から24日にかけて「2023 平和行動 in 沖縄」が沖縄県で開催され、23日の「平和オキナワ集会」には全国の各構成組織・地方連合会から1120人、24日の「ピースフィールドワーク」には469人が参加した。

那覇文化芸術劇場なはー縄戦で亡くなられた御霊と（大劇場）で、2023 世界中で起きている戦争や平和オキナワ集会が開催され、紛争で尊い命を落とされた。集いに先立ち、山本方々のご冥福をお祈りし、

「日米地位協定と沖縄」とした。主催者として芳野友子題した基調講演があり、日連合会長から「戦後78年た米地位協定とNATO軍地つた今もなお、国土面積0.6%の沖縄県に米軍専用施設が押し付けられ、米地位協定では国内法が適設の70%が押し付けられ、用されず、日本が不利な協基地が関わる事件は後を絶定となつていふことや、協たず、日米地位協定という定本文に明記している内容大きな壁が問題の解決を阻が合意議事録によつて覆さんでいる。」「連合は政府に

米軍の行動に対して日本がて徹底した議論を重ねると手出しをできないよう制限ともに地域の思いに心を寄がかけられていることなど「将来に渡つて平和運動を平和式典では、冒頭、沖縄継承し継続していくために

〇ピースフィールドワーク A(在日米軍基地)コース(235人) 瀬嵩の浜(辺野古、在日米海兵隊・キャンプシュワブ) →道の駅かでな(在日米空軍・嘉手納飛行場)→チビチリガマ →嘉数高台(中部戦跡、在日米海兵隊・普天間飛行場)
B(南部戦跡)コース(119人) 嘉数高台(中部戦跡、在日米海兵隊・普天間飛行場)→旧海軍司令部壕 →ひめゆりの塔／ひめゆり平和祈念資料館 →平和祈念公園／沖縄県平和祈念資料館→魂魂の塔
C(南部戦跡)コース(115人) 糸数アブチラガマ(入壕)→魂魂の塔 →平和祈念公園／沖縄県平和祈念資料館 →ひめゆりの塔／ひめゆり平和祈念資料館

次いで、東盛政行連合沖縄会長から藤井則正連合広島事務局長へと連合・平和行動旗（ピースフラッグ）が引き継がれ、次に平和4行動を開催する広島を代表して藤井則正連合広島事務局局長より開催に向けての決意が述べられた。

賓として松永享沖縄県商工労働部長の挨拶の後、沖縄県選出国会議員の紹介があった。

次いで、東盛政行連合沖縄会長から藤井則正連合広島事務局長へと連合・平和行動旗（ピースフラッグ）が引き継がれ、次に平和4行動を開催する広島を代表して藤井則正連合広島事務局局長より開催に向けての決意が述べられた。

最後に、堀川恵連合沖縄女性委員会委員長から平和アピール（案）を読み上げ、満場一致で採択し、集会を終了した。

「ピースフィールドワーク」では3コースに分かれ、沖縄戦の歴史や沖縄の現状に触れ、学習した。

戦後78年、本土復帰51年が過ぎ、当時を知る人が本当に少なくなつてきており、語り部も減少している。チビチリガマの少年の事件でもそうだが、沖縄本島ですら沖縄戦の記憶が風化していつていふと感

は私たちが語り継いで次の世代へと確実に繋いでいかなければならぬ」「決して他人事ではなく私たち一人ひとりが平和運動の担い手、発信者となり、この輪を一緒に広げていきましよう」と挨拶があつた。



主催者代表挨拶をする
芳野連合会長

連合徳島 2023 平和行動 in 広島



連合徳島は、8月5～6日に“平和の折り鶴”県民運動を広島の原爆慰霊碑等へ献げるとともに「連合2023 平和ヒロシマ集会」に各構成組織・地協から13人が参加します。



嘉数高台から見る世界一危険な普天間基地



チビチリガマの「平和の像」の前で説明を聞く参加者



沖縄から広島へピースリレー

第17回

「男女平等講座」

2023年6月30日、全通労働会館にて、第17回「男女平等講座」（男性リーダー対象）が2019年以来に開催され、各構成組織・地方連合会・単組から49人が受講し、徳島からは小畑青年委員会委員長と高尾担当職員が参加した。

講座に先立ち、則松佳子・連合副事務局長より「久しぶりの対面開催のため、労働組合に集う仲間同士、積極的にコミュニケーションをはかつてほしい。」

「職場や労働組合の未来を担う皆さんが新たな気づきや学びを得て、今後の活動に活かしていくことを期待

あらゆる差別の完全撤廃と
人権政策確立に向けた
自治体要請行動

部解放徳島地方共闘会議並びに部落解放同盟徳島県連合会は、7月18日から8月3日まで6日間、あらゆる差別の完全撤廃と人権政策確立に向けた自治体要請行動を行った。

する」と主催者を代表して挨拶があつた。

立教大学経済学部首席若菜教授より「労働組合とジェンダー平等」と題して

講義が行われ、「一見合理的に見える格差の理由について、その理由の理由について考えると実際は差別であることがあり」「女性の参画を進める上で数字ばかり見たのではなく、実態を変革しないと解決はしない」などの話があり、また10グループに分かれてのディスカッションを通じて、認識を共有し、理解を深めた。

井上久美枝・総合政策推進局長より「ジェンダー平等性リーダーとしての役割について、理解を深めた。

提起があり、「国際比較を含めた日本の働く女性の現状や連合の男女平等参画」「推進法」「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」に基づいた条例の改定や法の周知、②インターネッ

ト上の差別的書き込みを防止するためのモニタリング実施強化、③事前登録型本人通知制度の周知徹底、④LGBTQやSOGIに関する理解促進と性的少数者のカッパルを公的に認証する「パートナーシップ・ファミリーシップ届出制度」の導入推進を求めた。

エンダー平等・多様性推進の取り組みや課題」などについて説明があつた。

次に、「男女とも働きやすい職場づくりのために、イ

クボスと心理的安全性確保でチームづくり」と題して、株式会社ソーラーレの東浩司・代表取締役より、演習を交えた講義が行われ

た。アンコンシャス・バイアスについてセルフチェックを行うとともに、「2週間

のうちに楽しかったこと」「心理的安全性が高かったチームの雰囲気、特徴」などのテーマで話し合い、男女平等参画社会に向けた男性リーダーとしての役割について、理解を深めた。

終わりに、井上久美枝・総合政策推進局長が「労働組合は『想像』と『創造』が大切。皆さんがニューリ得をなくすために事前登録型本人通知制度を全住民に適用するようにすべき、④「パートナーシップ・ファミリーシップ届出制度」導入に向けた理解促進を図るとともに、導入済の自治体に対しては制度の充実・周知徹底などを要請した。



後藤田県知事に要請書を手交する
島共闘会議議長



参加者全員で記念撮影



首藤教授から質問を受ける
小畑青年委員会委員長

ーダーとしてこれから活躍し、労働組合だけではなく、職場に戻った後も本日も学んだことを活かしてほしい」とまとめ、閉会した。



開会式の様子

連合徳島は、2023年7月29日～30日の両日、海陽町の「まぜのおかオートキャンプ場」にて、ボランティアサポーターチーム（VST）養成講座オプショナル『「連合の森」親子サマーキャンプ』を開催し、構成組織組合員の家族52人が参加して交流を深めるとともに自然の大切さを学習した。

開会式では、主催者を代表して連合徳島・島会長から「連合の森」親子サマーキャンプについて説明の後「感染予防に十分注意しながら、このキャンプを夏の素晴らしい思い出にしてほしい。また、組織を越えて協力しあい交流を深めてもらいたい」と挨拶した。



主催者を代表して挨拶をする島会長



「お話し」をしてくださった斎藤さん

昼のイベント①「お話し」では、大里集落の斎藤さんから翌日の植樹場所である「大里松原の歴史」について語り「大里海岸は、大昔より大津波と侵食の繰り返しにより出来た海岸で、昔から地域の生活と命を守ってくれた大切な松原であったが、松くい虫の被害と台風による高波の影響で、多くの松林が枯れてしまった。蘇生するために連合徳島さんにも協力をいただきながら一生懸命植樹に取り組んでいる。明日の植樹を頑張っていたきたい」と説明した。

夜のイベント②「木工教室」では、大里の皆さんの指導のもと、親子で協力しドリルで竹に様々な模様の穴をあけて自分たちのオリジナル竹灯籠を完成させ、夜には広場に並べて灯りを灯して展示した。夕食のバーベキューでは、くじ引きやスイカ割りで盛り上がった。

2日目の「連合の森」の植樹は、佐藤大里集落代表の挨拶と、植樹の仕方と注意事項を聞いた後、全員で100本の黒松の苗木を植樹した。植樹後、参加者全員で集合写真を撮り「連合の森」親子サマーキャンプを終えた。

猛暑の中、大里集落の皆さんや多くの関係者にご協力をいただいたことに感謝する。



竹灯籠作成風景



植樹



B B Q やスイカ割り

メイン行事は2つ。1つ目の「アメゴつかみ取り」には小学生以下の子どもたちが、川に放たれたアメゴのつかみ取りに挑戦した。素早く逃げ回るアメゴに悪戦苦闘しながらも見事に捕まえ笑顔のはじける子どもたち、つかむことができずにお父さんお母さんに助け

を求める姿も見られた。川に入るのが難しい幼児は、つかみ取り体験としてタライの中のアメゴつかみ取りを体験した。初めて見る泳ぐ魚のつかみ取りに真剣そのもの。用意された約850匹のアメゴは見事に子どもたちの手の中に納まった。

2つ目は「恒例ラッキー抽選会」地協結成30周年記念と銘打って、各共催団体からの景品もいただき、今年には「夏のアウトドア」の景品抽選会を実施しました。当選された方はもちろん大喜びで家路に向かい、特別賞を獲得した人の嬉しそうな顔、今年の夏は是非とも楽しんでほしい。

第24回 夏休み フェスティバル

西部地域協議会主催



会長賞を手渡す島会長と受取る当選者

4年ぶりということもあり、役員もほとんど経験者がいない中での会場の準備・運営の2日間であったが無事終了することができた。この間、コロナ渦の中で交流とふれあいの時間が多く失われてしまったが、創意工夫し相互の連携が深まる取り組みを今後も進めていく。

を求める姿も見られた。川に入るのが難しい幼児は、つかみ取り体験としてタライの中のアメゴつかみ取りを体験した。初めて見る泳ぐ魚のつかみ取りに真剣そのもの。用意された約850匹のアメゴは見事に子どもたちの手の中に納まった。



夏休みフェスティバルの参加者



つかみ取り体験を行う子供たち



アメゴのつかみ取りを行う子供たち

